

News Release

2025年1月28日
鹿児島興業信用組合

介護外国人材 歓迎セレモニー開催(社会福祉法人敬心会様)

西原垂水支店の取引先 社会福祉法人敬心会様では、同支店や人材ビジネスを手掛けるアソウ・ヒューマニーセンター社の支援を受け、今回インドネシア介護人材4名を採用しました。

入国月の1月23日に歓迎セレモニーが開催されました。

歓迎セレモニーでは、野田支店長から4名に対し洋服や自転車が贈呈されました。これは、当組合全職員が協力して集めたもので、1月頃から着てもらうことを想定した秋冬物を中心に入国に合わせて手渡し、その場で試着するほど、大変喜ばれました。



News Release

【介護外国人材支援のポイント】

1. 介護人材不足の解消に対する取引先支援及び地域活性化。
2. 国の「特定技能制度」を活用。
3. 株式会社アソウ・ヒューマニーセンターとの業務連携によりノウハウの共有と継続した支援に繋がる（取引先の介護福祉施設にアジアの働き手を引き合わせる支援）
4. 組合全体で取組むため、ニーズがある場合は、まず営業部にトスアップする。

【アソウ社とのスキームについて】

- ・事業者が採用面接する時点で、現地の候補者に日本語能力や必要な介護資格の取得を求めない点に特徴がある。内定後に入国に必要な資格を取ったうえで来日するため、1年程度の期間がかかる。その間に受け入れる事業者も体制を整備できる。
- ・現地で日本語教育を受ける費用などは受け入れる事業者が負担する。特定技能生は転職が認められており、「採用後にいかに人材を定着させるかが課題になる」（アソウ社の担当者）。
- ・事業者の負担は大きいですが、日本語の習得段階から資金援助することで関係を深め、離職防止につなげやすい利点がある。

【インドネシア人材が急増】

- ・鹿児島県内では外国人労働者数が増加傾向。
鹿児島労働局によると2023年10月末時点で12,015人、届出が義務化された2007年以降で過去最多。※県内、専門介護人材（この仕組みで2025年初期で150名）
- ・日本政府が2022年3月水際対策を緩和して以降、増加ペースが加速。
- ・鹿児島県で働く外国人労働者を国籍別で見ると、ベトナムが（55%、3,448人）を占める。次に多いのがインドネシア（24.3%、1,521人）の割合が高まっている。
- ・1年前と比べ、インドネシアの人材は1.7倍の2,183人に増加（令和元年以降、約7倍）技能実習での来日が7割を占める。
- ・給与面等でベトナム出身者が採用しにくくなっている部分もインドネシアが増えている要因のひとつでもある。

News Release



【お問い合わせ先】

鹿児島興業信用組合 営業部 担当：海田、今村 TEL. 099-224-3180